

「はかた一番どり」に対する 飼料用玄米の給与技術

畜産部

1 背景、目的

飼料自給率を向上させるため、肉用鶏に国産飼料用米を給与する技術が求められています。しかし、本県で開発した県産銘柄肉用鶏「はかた一番どり」では現在そのような事例がなく、国産飼料用米を給与することによる肉質や生育への影響、適切な飼料の配合比率等不明な点が多く存在しています。

そこで、「はかた一番どり」の飼料に多く含まれるトウモロコシを国産飼料用玄米で代替した際の影響及び国産飼料用玄米の適切な給与法を明らかにしました。

2 成果の内容、特徴

- 1) 「はかた一番どり」仕上げ飼料に、従来の飼料中に含まれるトウモロコシの半量にあたる 30%の飼料用玄米を全粒で配合して給与しても、出荷体重、飼料要求率及び正肉の重量は慣行と同程度です（表1）。
- 2) 飼料用玄米を 30%（トウモロコシの半量）配合すると、皮下脂肪の黄色度は薄く白くなりますが、ムネ肉、モモ肉の肉色は変わりません（図1）。
- 3) 農家実証調査でも、飼料用玄米を給与した場合の発育や飼料摂取など飼養成績は慣行と同程度で、自動給餌機の日詰まりや敷料水分の上昇等、管理上の問題もありません（表2）。

3 主要なデータ・画像など

表1 飼料用玄米給与による飼養成績

試験区	適 温 期				暑 熱 期			
	育成	出荷	飼料	正肉 ^{注)}	育成	出荷	飼料	正肉
	率	体重	要求率	歩留	率	体重	要求率	歩留
	%	kg		%	%	kg		%
玄米30%区	96.5	3.46	2.38	40.5	96.7	3.02	2.35	39.3
対照区(慣行)	98.2	3.36	2.38	41.2	95.9	3.09	2.31	39.9

注) 正肉歩留：生体重に対するムネ肉＋モモ肉＋ササミの割合。

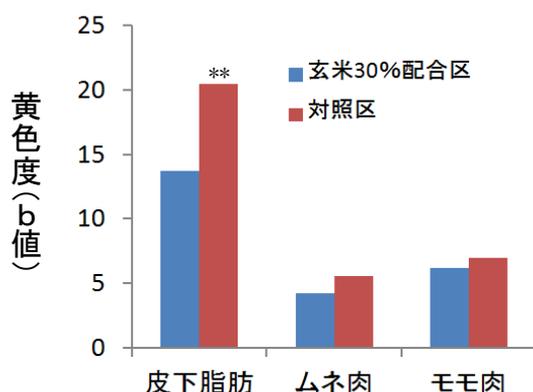


図1 飼料用玄米給与による肉色結果

- 注) 1. 色差計で黄色度を計測
2. **は1%水準で有意差あり (t検定)

表2 農家実証における飼料用玄米給与による飼養成績

試験区	育成	出荷	飼料	生産	粗利益 ²⁾	敷料水分	閉塞 ³⁾
	率	体重	要求率	指数	/羽	9週齢	状況
	%	kg			円/羽	%	%
玄米30%区	99.1	3.12	2.12	235	95	51.4**	1.0
対照区(慣行)	99.2	3.10	2.26	218	81	58.6	0.0

- 注) 1. 供試羽数：各試験区3,000羽/棟。
2. 粗利益/羽：(鶏肉収入－飼料代－雛代－捕鳥経費)/出荷羽数。
3. 閉塞状況：自動給餌機の詰り具合。
4. **は1%水準で有意差あり (t検定)。